



開かれた Stanford 大学 ～Diversity そのもの～

神戸大学 経済経営研究所
教授 趙 来勲

2011 年 1 月から 8 月まで、六甲台後援金でスタンフォード大学にて在外研究をしてきました。科研費での滞在を加えると、合計 10 か月ほどの滞在でした。この場を借りて六甲台後援会にお礼申し上げますと共に、心より感謝いたします。

短期間の滞在ではありましたが、感想は沢山あります。まず、ご存じのようにスタンフォード大学は常に世界のトップ 5 にランキングされている大学で、理系文系ともに極めて高い評価を受けています。特に大学院では、世界の最先端として幅広い研究が行われています。私は 3～4 個の講義を聴講してみましたが、学生は真面目で、きれいに細かくノートを書いていました。大学院の授業のほとんどはエリートのためのものらしく、最先端の内容の授業が早いスピードで行われています。学生はいくつかの講義に出席し、興味のあるものを見つけます。余談ではありますが、シカゴ大学経済学部ではより厳しい授業が行われているそうです。大学院 1 年の時 100 人いた学生のうち、PhD を取得できるのは 20～30 人ほどです。そして、その中から 2～3 人がスパースターのような人材として丁寧に育てあげられるのです。

次に、スタンフォード大学のキャンパスは私が見てきた大学の中で一番綺麗だと思います。常にカメラを持って写真を撮ったり、歩いたりしている観光客の姿が見られます。建物には人の名前がつけられているようです。おそらく寄付者の名前でしょうか。たとえば、William Gates Building, Paul Allen Building, Hewlett Building, Packard Children's Hospital, Yang and Yamazaki Building, Li Ka Shing Center, Ford Center, Charles Schwab Center, Knight Management Center, Jackson Library 等です。大学の卒業生が成功しているので企業や同窓会から多額の寄付金があるため、学生の奨学金、教員の給与共に高水準となっています。3～4 年前からの数字ですが、着任してすぐの Assistant Professor (助教授) の 9 か月分の給与は 12 万ドル (経済学部) で、ほとんどの教授は Chair Professor (称号付きの教授。給与・研究費の面で優遇される) になっています。食堂を含め全ての建物に wireless 通信が入っていて、ノートパソコンさえ持っていれば、どこでもインターネットに接続可能です。

しかし、私が最も驚いたのは、スタンフォード大学の Diversity (多様性) です。キャンパスを歩けば、いつでもさまざまな言語での対話を聞くことができます。英語、スペイン語はもちろん、日本語、中国語、ヒンドゥー語、韓国語、ヘブライ語、フランス語、イタリ

ア語、ドイツ語、ロシア語、スカンジナビアの言語等は毎日のように耳に入ってきます。大学構内にある公立小学校には 30 以上の国旗が掲げられています。大学院生のうち 1/3 が留学生で、外国籍教員の割合はもっと高いかもしれません。世界中から優秀な人材が集まっていることが分かります。

スタンフォード大学の卒業生を見ると、この大学の Diversity はもっと分かりやすいです。アメリカ人以外の卒業生の中には、以下に述べるような有名な政治家がいます。日本の元内閣総理大臣の鳩山由紀夫氏、イスラエル首相、ペルー元大統領、ホンジュラス元大統領、グアテマラ元大統領、初代イラン副大統領等です。また、IT 業界においては Google の共同創設者 Sergey Brin 氏（ロシア）、Yahoo! の共同創設者 Jerry Chih-Yuan Yang 氏（台湾）、Sun Microsystems の共同創設者 Vinod Khosla 氏（インド）が、一般ビジネス業界においては元第一勧業銀行頭取の近藤克彦氏、Pfizer CEO の Ian Read 氏（イギリス）、Anheuser-Busch InBev CEO の Carlos Brito 氏（ブラジル）などが卒業生として挙げられます。

このように、世界に開かれたスタンフォード大学の影響を受け、世界をリードするシリコンバレーが大学周辺に形成され、発達してきました。Apple Inc., Adobe Systems, Cisco Systems, eBay, Facebook, Google, Hewlett-Packard, Intel, McAfee, Netscape, Symantec, Oracle Corporation, PayPal, Sun Microsystems, Yahoo! などの著名な IT 会社は本社をスタンフォード大学の近くに置いています。また、IBM, Microsoft, Dell, Samsung, Siemens, AOL, Nokia, Sony, NEC, 日立, Toshiba, Panasonic など大きな研究施設を近くに所有しています。特に Microsoft 現社長と現 CEO は 2 人ともスタンフォード大学卒業生なので、人材を確保するため、一時的に Microsoft も本社をシリコンバレーに移転させるという噂が出ていました。

シリコンバレー住民の平均所得は日本人の約 2 倍であり、2010 年 GDP 成長率は 13.4% を記録しています。また、住民はアジア系・ラテン系・アメリカ白人がそれぞれほぼ同じ構成比率となっており、まさに「多国籍」と言えるでしょう。このようなシリコンバレーにおいて住民が平和に暮らし、日本に劣らないほど治安が安定していることは不思議です。前述の著名な会社の社長の多くもスタンフォード大学近辺に住んでおり、彼らの自宅の周りには高いフェンスなどありません。お店も食事も多国籍で、極めて豊富です。私の友人が「もし天国を自分で設計できるとすれば、スタンフォード大学を中心としたシリコンバレーが私の理想だ」と冗談を言うほどです。

よくないことではあるのですが、神戸にいと無意識のうちにアメリカと日本を比べてしまします。日本は少子高齢化とグローバル化のなかで、企業・雇用が海外に流出するか、海外から労働者を確保するかという 2 つの選択肢しかないかもしれません。今までは前者が勝っているよう見えます。しかし、そうすると、賃金が下がっていく一方で、年金も払えなくなるなどの問題が少しずつ出てくるのが今後の課題です。